（別添3）　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4470500408		
法人名	社会福祉法人　長陽会		
事業所名	グループホーム陽		
所在地	大分県佐伯市大字長良4952番地		
自己評価作成日	平成26年3月12日	評価結果市町村受理日	平成２６年９月５日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町２丁目１番４１号
訪問調査日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々の生活の中で自分の役割を持ち、豊かで安心した生活が送れるように、個々の持っている能力に対して最大限の力が発揮できる場所を提供する。また、生活リハビリに取り組む。今「できること」で自信を持ち、何気ない日常を生きる幸せを感じてもらえるように笑顔が絶えない、笑いのある施設にこころがけている。環境に恵まれている事から、散歩をする中で四季折々の自然を感じられる機会も多く「こころも体も自由」な施設に努め支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

建物も建物内も木造作りで広く、温か味と共に全体的にゆったり感がある。利用者の共有スペースも広い。部屋も好みのソファやテーブル等思い思いの物を持込んでいる。部屋で家族や知人の面会もしている。法人で毎月行う家族会や、運営推進会議への参加、普段から家族の面会も多く、良い関係作りが出来ている。職場環境も良く同法人内で親子、兄弟など身内同士が働いている。毎朝職員が近くの大橋の清掃ボランティアをしたり、管理者が地元のラジオ局を持っていて福祉関係の情報を提供したり、自然災害時に備えて防災避難施設やその建物内にコンビニエンスストアもあり、法人全体で基本方針が実践されている。家族の居ない人や家族が遠方の利用者向けに供養塔を用意し、安心して最後が迎えられるようにしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で地域と共に生きる」をモットーに笑顔・挨拶・掃除を基本に信頼される施設作りに　努めるを理念とし、共有して実践している。	毎朝、朝礼時に理念が盛り込まれた倫理綱領を読み、日々の実践に繋がっている。地域の清掃日に参加したり、毎朝近くの橋の清掃を職員がボランティアで行っている。利用者との散歩時等に笑顔で積極的に挨拶を交わしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや行事等に地域の方に来て頂き交流を深めている。	折り紙、歌、アコーディオン演奏、読み聞かせなどボランティアの訪問が多くある。地域の行事案内があり参加している。法人内に避難棟やコンビニエンスストアがあり、そこでの交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や法人内のケアハウスの入居者の方との交流会を行っている。この事で認知症の人を理解してくれている。行事のときは支援や見守りを快く引き受けてくれる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に1回行い、入居者の生活状況、事業所の近況を報告すると共にサービスの提供について話し合いを行っている。各委員や家族の意見を参考にサービス向上に取り組んでいる。	区長、民生委員、市のOBなど地域の代表者と家族、事業所の代表が参加している。年間計画や利用者の状況報告等を行っている。防災や虐待の話があり,サービス向上委員会で話し合っている。看取りの取り組みを話し家族から喜ばれた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターの職員に相談に応じてもらっている。また、運営推進会議の際には担当者にアドバイスをもらっている。	虐待の取り組み状況や、入居者の待機状況を聞いたり、認知症の対応等についても情報を得ている。運営推進会議に地域包括の職員が参加しており、情報も得やすい。協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言の施設として職員も理解しており、勉強会も行っている。個々の尊厳と人権を守る為に拘束をしないケアを行っている。玄関等の施錠はしない暮らしを継続している。	他法人の虐待や事故等についてサービス向上委員会、事故対策委員会が主になって学習会を行っており、研修会にも参加している。常日頃から法人内でもお互いに注意を呼びかけている。施錠による行動抑制はせず、布団に鈴をつけて動きを把握する等の工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い常に意識向上に努めている。また、日常業務の中で見過ごされる事がないように注意し言葉づかいには気をつけている。虐待防止に努めている。		

評価機関 ：　福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム陽

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性については話し合いを行っているが、活用には至ってない。必要な場合は活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約について重要事項説明書や入所前には施設の取り組み、ケアの内容についても話す機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人の福祉サービス相談委員会を2ケ月に1回行い苦情相談を受けている。家族とは手紙を書いたり常にコミュニケーションを図っている。また、苦情や要望など意見を明確に対応していると思っている。	法人の家族会が毎月あり家族が参加している。運営推進会議にも家族が交代で参加している。利用者担当の職員が月1回手紙を出している。広報紙も月1回出している。聞く機会に繋がっており、受診介助の要望があり、法人に協力依頼をするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の実情や日々のサービスに対する意見や提案を聞く機会や話し合いを設け職員の意見や提案を業務に反映している。また働きやすく意欲ある職場作りをしている。	月1回の管理者会議や、週1回の主任会議に意見を出している。職員の誕生祝を管理者同席のもと会食会をしている。日頃から手を振りあって挨拶を交わすなど意見が言いやすい雰囲気ができている。現場から看護師の要望があり採用した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回実施の自己評価により、業務上、把握している。資格手当等の見直しにより向上心を持って働けるように職場環境は整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務やケアに必要な勉強会を行い、知識、技術の向上に努めている。研修会にも適時参加を行い、資格取得の為に法人内では勉強会が行われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや他施設の職員の見学等の受け入れを行いお互いに情報提供を行ったりと交流を図りサービスの向上に取り組んでいる。		

評価機関 ： 福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム陽

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまでは本人に会って施設の説明をしたり、安心していただく関係作りをしている。本人の意見や思いを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には施設見学を行ってもらっている。家族の要望や意見を話せる機会を設け、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や入所希望があったとき、家族の必要としている支援を考え、他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の能力に応じた支援の中で介護される立場でなく喜びや楽しみを共有しお互いを向上させ信頼関係を築いている。職員が助けてもらう事も多々あり支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のペースに合わせ、本人と家族との絆を大切にし、家族と連絡を密にしてコミュニケーションをはかり共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまで大切にした人や場所と関係がとぎれないように、病院にでかけたり、家族や知人と外出、手紙の発送の支援等も行っている。	家族の協力のもと、馴染みの美容院に行ったり、知人を連れて来たり、知人と外出したり、定期的に訪問してくれるボランティアもあり、つながりができている。法人内のコンビニエンスストアや馴染みの店へ買い物に行ったときなど会う機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話や態度の把握を常に行い、共に支えあうように支援し孤立することがないように努めている。		

事業者名：グループホーム陽

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居した方のもとへ訪問したりしている。家族には手紙を出したり、行事の時には案内状を送ったりと交流を図っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。話し合いを行い本人の望むよい暮らしができるようにしている。	日常的なケアの場面の中で表情や動き、しぐさ、ふと漏らした言葉などを生活記録に残し、ミーティングで報告して情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦、環境、馴染みの暮らし方について職員が情報を共有して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの現状の把握についても職員で情報を共有し個々の出来る事の理解を行い支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時等を利用して話し合いを設け職員間で情報を共有し3ヶ月～6ヶ月毎に見直しを行い、新しい情報、変化等ををを取り入れプランに反映し作成している。	家族との面会時や電話で意見を聞きプランに取り入れている。毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとにケア会議で見直しをしている。緊急を要するものは赤字でプランに記録し、随時検討し見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきについて個別に記録し職員間で情報を共有しながら実践している。また、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて通院支援や外出の支援をしている。家族の希望に応じて支援できるように取り組んでいる。		

評価機関 ：　福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム陽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ボランティアによる訪問、学校関係の学生の訪問等を受け入れ豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が火曜日に行われている。（月に2回往診）緊急時においても適切な医療が受けられるように支援している。	専門医や定期受診は家族が主に行っているが、場合により事業所の管理者や看護師が同行する。家族の受診後の報告は生活記録に記入し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に今年度の8月から看護師が常勤で専従配属され、介護職員も気づきがあれば、すぐに相談ができ、緊急時には夜間でも駆けつけてくれる。利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院の地域連携室の相談員の方やソーシャルワーカー、看護師と情報交換を行い連絡を密に行っている。日頃から病院に行った時には地域連携室を訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所のときに重度になったときのことを家族と話し合いを行っている。また、今年9月より看取りを支援できるようになったことから、家族と話し合いを行い終末期をどのようにするか取り組んでいる。	家族の要望も多く、看護師も常勤なので看取りを行っている。重度化対応、終末期ケア対応方針の文書もあり家族、職員とも共有している。終末期についての学習会もしている。家族も泊まったりして協力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常勤の看護師がいるため、緊急時のときも適切な対応ができ入居者も職員も安心して対応ができている。緊急時の対応についても勉強会等で取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、避難訓練を行っている。（夜間想定、火災、地震津波等）法人に避難棟が建ち、地域の避難場所にもなっていることから協力も得られている。	法人に防災避難施設があり、普段の散歩時に練習を兼ねて行っている。避難訓練時には地域の人が利用者の誘導支援をしたり協力が得られている。避難棟には備蓄や自家発電があり、煮炊きができるように設備も整っている。	

評価機関 ： 福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム陽

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常のケアの中で言葉遣いや対応には十分注意して支援している。また、一人ひとりの人格を尊重し職員間で注意し対応している。	高圧的な言葉や命令口調、語尾の使い方など言葉づかいに気をつけている。過度な敬語、標準語にならないようにしながら、できるだけ敬語、標準語で対応している。お互いに気づいた時点で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できるように支援し本人の思いや希望を考えてあげれるように支援している。自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし本人の思いや希望に添ったケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えることにより生活意欲につながる。その人らしいおしゃれを楽しめるように支援している。お化粧をする支援をしたり、美容院に出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は法人で作っており、盛り付けをを行っている。準備、片付けを入居者の方と一緒に行っている。また、毎月１回の給食会議で要望を出し、栄養士とは常に話をして要望を取り入れてもらっている。	法人内で米や野菜づくりをして、手作りのものを利用者も職員も一緒に食べている。助食も箸を使い、ゆっくり時間をかけて食べている。誕生日には本人の希望のものを出している。おやつは事業所内で手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による献立によりバランスがとれている。また、水分量、食事量も一人ひとり把握して記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い一人ひとりに合わせた介助により行っている。		

評価機関 ：　福祉サービス評価センターおおいた

事業者名：グループホーム陽

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援については法人も取り組んでおり一人ひとりの力や排泄パターンを活かしてトイレでの排泄に努め支援している。失敗もあるが、トイレに座っていただくように支援している。	排泄チェック表、利用者の表情、動きなどのサインを見逃さないように排泄支援を行っている。共用トイレや自室内のトイレに誘導している。自尊心、羞恥心の高い利用者に配慮した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給にはいろいろな種類の飲料物を工夫し運動を働きかけて支援している。看護師と連携を図り、個々に応じた予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	檜風呂で週3回を目安に個々で楽しんでいる。曜日や時間帯は決めてあるが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせての支援に取り組んでいる。	週3回午後からの入浴が基本であるが、希望があれば毎日でもできる。檜風呂で個別対応しているが、気のあった利用者同士で入浴を楽しむ事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は自由で個別。一人ひとりの生活習慣や状況に合わせて安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬については看護師が管理しており、職員間で情報を共有し十分に注意を払い支援している。服薬後の確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いある日々が過ごせるよう楽しみごとや気分転換等の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃は散歩に出かけたり、できる限り支援している。本人の希望があれば家族等に協力してもらい支援している。また、ケアハウスの入居者の人と一緒にイベントに出かけたりして支援してもらっている。	職員の都合で個別の外出支援は困難であるが、気のあった利用者同士の散歩や、職員の外出時等に誘っている。毎日の本部までの食事取りにも誘っている。イベントには全利用者が出かけている。	

事業者名：グループホーム陽

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については家族が管理している方が殆どです。お小遣いを所持している人に対しては買い物等に出かけたりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話についてはプライバシーに配慮して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも生花を生けている。日常の生活で共有スペースでは家庭的な雰囲気を味わって頂けるように季節感を取り入れ居心地よく過ごせるように工夫している。	木造で電気スタンドの笠に和紙を使用し、温か味が感じられる。職員の協力もありホールや洗面所等あちこちに季節の馴染みの花を飾っている。敷地内の桜や周りの野山、田んぼなども見渡せる。個別にクッションやひざ掛けを用意して、ゆったりと居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーは自由に使え気の合った利用者同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の写真や花、観葉植物、ご主人の慰霊等やソファー等個々の使い慣れたものや思い出のもので居心地よく過ごせるように工夫している。	各利用者の部屋の出入口に和紙を使った門灯があり、趣を添えている。仏壇や家族写真、思い出の小物を置いている。部屋のスペースも広く、ソファーの持ち込みもあり、家族や知人の面会時にもゆっくりくつろいでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の生活能力に合わせてできるだけ自立した生活がおくれるように工夫している。		